

電友会四国連合会報

第 13 号

76. 1



目次

年頭にあたって……………	四国電気通信局長……………二
電気通信歴史館のころみ……………	四国電気通信局副局长……………二
年頭のごあいさつ……………	電友会四国連合会長……………三
二つのお願い……………	四国電気通信学園長……………四
電友会四国連合会総会の開催……………	……………四
各県退職者の会総会記(徳島・高知・愛媛)……………	……………五
秋の叙勲……………	……………六
恩給・共済年金改正法律案通過……………	……………六
おしらせ……………	……………六
特集……………辰年は語る……………	……………七
猪谷嘉夫	井上義勝
小野利喜信	木村松太郎
田島勝美	安淵堅一
鴨谷比早栄	松本一喜
大田佳代	喜田鎮雄
	寺西保
	竹田輝豊
	内田龍雄
	小松重幸
	竹村辰猪
	内田春雄
	渡部義数
書道……………	長谷川幽齊……………二
随筆……………	栗田信雄・黒田富一……………
短歌・俳句……………	藤田基孝・山内旬一・三島花人……………三
訃報……………	……………三
編集後記……………	……………三

年頭にあって

四国電気通信局長

原 田 阿久利



電友会の皆様おめでとうございます。皆様方には益々ご健康で新年を迎えられ心からお喜び申し上げます。旧年中は皆様から多大のご協力とご支援をお寄せいただきありがとうございます。深くお礼申し上げます。また電友会は年を重ねるごとに益々ご発展を続けられ誠に同慶にたえません。心からお喜び申し上げます。

偲て年頭にあたりまして所感をのべてさせていただきます。昨年私は懐しい四国の各地を廻りまして、四国は一つ一つの合言葉のもとに発展を遂げている状況をつぶさに見聞致し大変嬉しく思いました。この発展のハイオニアとして四国の電気通信事業も益々大きくなり、昨年九月には四国の電話は百万を突破致したほか各種サービス面においても全国水準にせまらざるを得ない。これは皆様方諸先輩のなみなみならぬご努力の賜と厚くお礼申し上げます。

近年国民生活水準の向上と福祉社会への指向により電気通信サービスに対する要望は多様化されサービスの質においても益々高度なものとなってまいりました。これに伴い今後

努力を重ねなければならない課題が多くございます。先ず何と云っても五十二年度末までには創業以来の夢であった「すぐつく電話」を実現させることでもあります。これは公社が国民の皆様様に約束したものであります。是非完遂しなければならぬものであります。今年はそのアプローチを確実に行ってしっかりと体制をかためなければなりません。

また一人暮らしの老人への福祉電話「あんしん」難聴者への福祉電話「めいりよう」等の普及、またデータ通信利用による公害防止、交通管制、医療システムなど福祉社会の向上発展に盡力しなければなりません。また昨年の台風被害にかんがみて非常災害時における通信確保対策を更に充実致さねばなりません等々推進すべき問題が山積されております。一層のファイトを燃やしての次第であります。

その中において皆様ご存知のとおり、最近の景気の沈滞に伴う電話収入の伸び悩み、住宅用電話の増加による収入単金の通減また支出面では物価の高騰人件費の増大等により収支のアンバランスは非常に大きくなっており四十九年度では公社発足以来初めて一七五三億の赤字決算となりました。そして五十年年度末決算における累積赤字は五千億にも達するものと予想されております。しかしながら電気通信事業に寄せられる要望に「すぐつく電話」の体制確立と電気通信事業の健全な維持発展を崩すわけには参りません。このために経営の近代化、合理化をさらに推進するかたわら公社財政基盤の抜本的改善を図るために、電信電話料金の改定実施を今年には是非お願いしなければならぬと痛感致しております。私達後輩といたしましては、先輩の残されたご功績を引き受け、さらに次の世代へ

も立派な姿で電気通信事業を引き継ぐ責任を強く感じており、新しい年を迎えて覚悟もあらたに、この苦境を克服すべく一層努力を続けてまいり所存であります。

皆様方は私たち現役の最大のよき理解者であらせられると共に地域社会の有力な実力者であらせられます。なにとぞ公社経営の実情をご理解いただき格段のご支援ご協力をお願い致します。

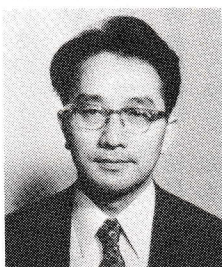
最後に皆様方の一層のご健康とご活躍をお祈り申し上げ私の新年のごあいさつといたします。

電気通信歴史館の

ところろみ

四国電気通信局副局長

町 田 邦 雄



今年の九月、四国の電話は遂に百万の大台を越えました。戦前最高の加入数（昭和十八年）三万、公社発足時五万という数値を思いおこしますと、この三十年間の電話の発展はまことに目をみはるものがあります。

これもひとえに戦後の廢墟の中に立ち上りあらゆる悪条件にもめげず通信施設の建設に一生を捧げられた諸先輩の御努力の賜と深く敬意を表する次第であります。

四国の電話がこれ迄になるにはその過程において先輩各位が御苦勞された人の知らない

御経験もあつたでありましょうし又、これだけは後輩達に語っておきたいというような事実も多かったと存じます。私共はそれを是非何かの形でのごしておきたいと考えております。一昨年編纂致しました事業史もその一つであります。このたび通信局長の御提唱により四国学園内に電気通信歴史館をつくることを検討いたしております。陳列されるものは、過去において使用された古い型の電話機交換機をはじめとする設備機器類になろうと思ひますが、これを単なる羅列ではなくして台風災害時の記録とか、新施設導入時の苦心談というような歴史の一コマを語るものとして写真とか、記録とかと共に立体的に陳列し当時の状況をより迫力あるものとして表現できるようにできないかというのが我々の発想であります。もとより最初から大規模なものは無理と思ひますが、少しずつでもそのような線に沿って記録をさぐり陳列品を集めたいと思つております。そのためには何といつても先輩各位の御指導、御援助を頂かねばなりません。アイディア、情報等については是非共、お力を貸して頂きたいと考えております。

電電公社には毎年新しい職員がふえておりますが、現在の規模になる迄の電気通信建設の歴史を若い人達にも是非知ってほしいと思ひます。我々は今や全国のみならずまでひろがった巨大なネットワークを国民の財産として受けついでおりますが、先輩各位の体験された御苦労を思いおこしつこの通信システムを保守し、運用し、更に発展させるよう努力をしていきたいと思います。

今後とも御指導下さいませようよろしくお願いいたします。

年頭のごあいさつ

電友会四国連合会長

泉 節太郎



電電退職者の皆さん、明けましてお目出度うございます。本年も皆さんにとって、よい年でありませうように、どうか元気でしな、どうか元気でしな、あわせにお過ごし下さるよう、遙かに蔭ながらお祈り申し上げます。

さて皆さんが待望せられていた昭和五十年度の年金恩給の改正については、昨年の通常国会で流産したため、一時心配せられました。政府はその後臨時国会に再提案、去る十一月七日の参議院本会議の可決により成立したことはご同慶に存じます。

昭和五十一年度については、この稿を草する当時には、未だ予算案ができておりませんため、見通しがはっきり致しませんが、概算要求としては、平均約十一％（上に薄く下に厚くという）の増額ということになっております。この要求の成り行きを、皆さんとともに凝視し、且つその実現を期待いたしたく存じます。

次に、皆さんにお願い申し上げたいことは今四国電気通信学園が創設を企画しております、「うるおい文庫」と「歴史コーナー」へのご協力のことです。前者は学園が、学生向きの図書施設の充実

をはかり、これを学生に読ましめることにより、将来の、潤いのある心ゆたかな職員を養成したいとの意図のもとに、その図書充実のために協力を、現職員や退職者に呼びかけているのであります。

もちろんこうしたことは、公社予算をもつて行うべきことではありませんが、それでは時間がかかりすぎ、早急の間に合わない。そこで、電電在職者や退職者に呼びかけ、皆さんがすでに読まれて用済みの古本で、前記の意図に合うような本があれば、できるだけ寄贈をいただきたいというのであります。

次に「歴史コーナー」は「眼で見る事業史」とも言います。事業発展の経過が眼で見てわかるようなものを展示して、これによって、見る人をして、容易に事業の歴史を知ってもらうようにしたいとの趣旨によるものようでありませう。

例えばある時期には、線路保全のために、「線路工夫」という制度があつた。それを示すために、線路工夫が着用していた法被や帽子を、また昔の交換手の姿を示すために当時の交換手が着用していた白い事務服や紺の袴といったものを展示したい。若し退職者の中にそうしたものを持っている人があるならば、そうしたものを学園へ提供してもらいたい、という希望であります。

いづれ具体的には後ほど連絡があると思いますがその節はよろしくお願い申し上げます。

表紙のごときは

庄野 丹秀（内海）

松山城 初春の松山城を画して見ました。松の緑に朝日をうけてそそり立つ城は街の象徴であり市民の誇りでしょう。私にも松山城は懐しい思い出のある城です。

二つのお願

磯 岡 芳 明

明けましておめでとうございます。平素何かとお世話になっており、厚くお礼申しあげます。

さて、当学園では、卒業生や先輩の植樹がすくすくと育ち、さわやかな「みどり」の環境を保持しておりますが、私達はこの美しい環境を維持していくとともに、これを更に発展させ、学園を一層うるおいのあるものにしていきたいと考えております。

このようなことから、今般つぎのことを思いついてみました。

その一つは、「うるおい文庫」の設立です。この文庫は、職場や家庭で眠っている古本などを寄贈していただくことよって造りあげたいと考えています。勿論学園には図書室があります。もつとリラククスな自由利用できる文庫を開設し、学園生活をよりうるおいのあるものにしていきたいというのがこの文庫設立の趣旨であります。

その二は、「四国の電気通信歴史館」の創設です。この歴史館は、つぎのような資料を収集し、電気通信が地域社会とどのようなかわりをもちつつ発展してきたかを展示するとともに、郷土民芸コーナーも併設するなど広い分野のものとし、誰でもいつでも見学できるようにしたいと考えています。

- ◇磁石式手動交換機及びその付属機器等
- ◇各種電話機、ケーブル、工具等
- ◇モールス通信機器
- ◇電話帳、式紙類、加入申込書等
- ◇作業服、写真等

歴史館創設に当たっての一番のなやみは、古い資料の収集がむずかしいことです。「出品」の形でよいから幅広く収集したいと思っております。古い資料は、ともすれば死蔵されたり一代限りで消えてしまいがちであります。これらの資料が蘇生し人びとの役にたかながら後世に残していくことができればと願っております。勿論、寄贈や出品された資料は寄贈、出品元を明確にし保存に万全を期すこととします。

本年度は、四国の地に初めて電信用海底線が布設されてから百年目に当り、また加入電話数も百万を突破する意義深い年であります。これを契機に「うるおい文庫」と「電気通信歴史館」を創設していくこととした次第であります。御支援御協力を切にお願い申し上げます。

なお、これらの事務は当学園教務課（電話〇八九九一三六一二四二五）が担当しております。（四国電気通信学園長）

電友会四国連合会総会の開催

去る一〇月三〇日、高知電気ビルにて第四回総会を開催した。出席者は各県の会の役員と連合会役員を併せ五五名であった。

会は泉会長のあいさつに始まり、原田通信局長から丁重な祝辞をいただき、また野本友愛会長からもごあいさつをいただいた。次に議案についてそれぞれ討議が行なわれ、いづれも原案のとおり承認または決定された。

- 一 昭和四九年度会務報告
- 二 四九年度決算報告及び会計監査報告
- 三 昭和五〇年度事業計画

四 昭和五一年度収支予算
五 会則改正

翌三十一日正午から連合会総会出席者と高知県電電公社退職者の会総会出席者との合同懇談会が駅前第一ホテルで開催され、各県の会と地元電電公社との交歓の有意義な会となった。

この総会開催にあたり、電電公社および地元高知県電電公社退職者の会から格別のご協力ご配慮をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。

昭和49年度 収支決算書 (49. 4. 1 ~ 50. 3. 31)

支出の部		金額
電退連分担金		20,000
旅費交通費		31,500
会報発行費		314,400
会役員費	1,950	1,950
事務用品刷の費費費費他	6,920 715 12,000 11,900	31,535
バッチ購入代金		196,000
繰越金		77,315
合計		672,700

収入の部		金額
繰越金		114,000
会費		74,300
賛助金		314,400
バッチ購入代金		170,000
合計		672,700

昭和51年度 収支予算書
(51.4.1~52.3.31)

支出の部		収入の部	
項目	金額	項目	金額
電退連分担金	20,000	繰越金	50,000
旅費交通費	76,000	会費	83,000
会報発行費	520,000	賛助金	520,000
会議費	20,000	寄付金	20,000
総務費	10,000	雑収入	2,000
理事費	10,000	合計	675,000
事務用品費	20,000		
通信費	3,000		
印刷費	5,000		
雑費	12,000		
雑費	5,000		
予備費	14,000		
合計	675,000		

会則改正

一 会則第一五条を繰り下げて第一六条とし次の一条を挿入する。

(贈与金等)
第一五条 この会において次のとおり贈与を行うことができる。

(1) 各県退職者の会の会員が米寿、白寿にあたる場合にお祝として一万円相当の記念品を贈る。

(2) 会長において必要とみとめたときは、各県退職者の会の会員以外の吉凶に対し慶弔金又は見舞金或は花輪などを贈ることができ、事後前項第二号の贈与をしたときは、事後なるべく早い時機に開催される理事会に報告するものとする。

二 付則第四項を次のとおり追加する。
この会則は昭和五〇年一〇月三十一日から改正実施する。

電友会四国連合会 昭和五〇年度 事業計画

電友会四国連合会は、各県相互の連絡を密にし、会員の生活の安定、福祉の増進を図りあわせて電信電話事業に寄与せんとする会の目的達成のため、本年度においては下記の事業を行うものとする。

一 インフレの進行もようやく鈍化したものの、物価情勢は高値安定である現状にかんがみ、恩給、共済年金受給者の処遇改善に關しては前年度に引き続き関係方面に陳情運動を強力に展開する。

二 電友会四国連合会の総会を開催する。

三 退職者の医療費軽減については医療共済制度が実施されているが公社医療機関のない地方在住退職者についても何等かの方法により医療費軽減の恩典に浴することができよう電退連を通じて電電公社へ働きかける。

四 生存者叙勲の範囲の拡大について電退連を通じて関係方面へ要請する。

五 連合会会報の一層の充実をはかる。

電電徳島温古会総会の記

一〇月二七日電電徳島温古会総会を徳島駅前阿波観光ホテル三階大ホールで行った。会員一三〇名中、九八名の出席者があり顧問として徳島電気通信部長、同次長、徳島電報電話局長が出席された。

齊藤五郎司会により、物故者に黙悼を捧げ引続き杉本副会長開会のあいさつを行い総会に移る。豊崎会長あいさつ。賀川通信部長あいさつの中に電電公社の現状と将来について説明され会員一同大いに感銘を深めた。又通

信部営業課長より公社関係パンフレットの説明及び新規加入者開通状況等の説明を受けた総会議事について、原重雄君議長に選出され議事に入る。昭和四九年度業務報告並に会計報告を会長及び越久田理事並に齊藤五郎會計幹事によって行い、五〇年度業務計画、会則の一部改正の承認などがあり、その他会則による長寿者に対する表彰状並に記念品の贈呈があった。本年度の表彰者は古稀一五名で喜寿米寿などの該当者はなかった。

午後〇時一〇分新居副会長閉会のあいさつを行い総会を終った。

会場を四階の日本間に移し、記念の写真撮影を終り同所で懇談会を開催した。

賀川通信部長より招待のあいさつを載き会長一同に代って謝辞を述べ、引続き徳島電

謹賀新年

昭和五十一年元旦

電友会四国連合会

理事	会長	赤 泉	猪 谷	豊 崎	小 島	友 川	香 川	越 久	長 崎	渡 部	喜 田	玉 川
副会長	赤 泉	猪 谷	豊 崎	小 島	友 川	香 川	越 久	長 崎	渡 部	喜 田	玉 川	
節太郎	節太郎	嘉 夫	嘉 夫	二 三	二 三	照 一	照 一	保 之	輝 喜	義 数	鎮 雄	邁 雄

報電話局長長勇士さんの音頭で乾杯を行い宴に入る。久しぶりの旧知旧友相和して大いに飲を盡し時の経つを忘れた。午后三時、土橋晴義氏の音頭で電電公社の発展と電電徳島温古会の弥栄を祈って万才の三唱あり、まことに盛会の裡に総てを終了した。

また元気で会おうとお互に肩を抱き合って良き一日とよき天気であったことを喜びながら三々五々と家路についた。(眉東山人 雲庭)

**高知県電電公社退職者の会
総会の記**

総会は一〇月三十一日午前八時四〇分、長崎副会長司会のもと、一〇四名の会員出席をもって、花々しく開催した。まず高知電気通信部長が、公社事業が直面する重大な局面を織りまぜた祝辞を述べられ、会長の経過報告、事業計画を承認の上議事にはいった。

今年の総会は議事が多く、先の台風五号に伴う床上浸水の被害者一名に対する見舞金の事後承認を求め、議案を承認、喜寿、米寿、白寿に対する慶祝金制度と会費一、〇〇〇円を一、五〇〇円に引き上げる会則を上程した。会費の引き上げは、前総会で、会員の中からその必要性を求めた声があったものの会員中には年金の最低線にある者もあり、執行部としては、これが処理に苦慮したところであるが、提案の結果は満場一致、これも最近の諸物価高騰の故に、止むなしとする心情に助けられたものと思う。

次いで、五〇年度予算の組替案、当会の沿革史に記載する一年間の記録、高知電話会社の賛助会員となる事項を審議承認、最後に西村、長田両参議院議員に対し、年金引上げについての努力に対し、感謝すると共に、こ

の上の御盡力を要請する陳情文を満場一致拍手のうちに承認して議事を終った。

尚会長以下役員は全員留任、連合会理事も従来通り小島、長崎が担任することになり、午前十一時記念撮影をして全日程を終了した

愛媛電友会総会の記

菊花の薫る一月八日、第一四回総会を、ホテル奥道後で開いた。会員二三〇名が出席し、篠浦達行氏を議長にして、総会に入る。

泉会長のあいさつと、愛媛電気通信部長のごあいさつで、電電公社の近況をつぶさに承って、われわれOBの役割りに想いを新にするものがあつた。

議事に入つて、五〇年度会務報告と会計報告を承認し、五一年度の事業計画と収支決算を決定する。会の運営について、会員から活発な意見や要望も出て、議事を終る。

長寿の会員に記念品(喜寿五人、古稀二十五人)を贈呈し、役員の改選をして、総会を終了した。

総会後同ホテルで、愛媛通信部長招待の懇親会が開かれた。在松山の各通信部幹部と県下の報話局長のお世話で歓談に花が咲き、盛大な会となつた。また来年も互の健康を祈りつつ乾杯のうちに散会した。(毛利記)

秋の叙勲について

昭和五十年秋の叙勲に香川電友会の大屋敷義夫氏が電信電話事業に貢献された功績により「勲四等瑞宝章」をお受けになりました。私共一同心からお喜び申し上げます。

恩給・共済年金改正法律案通過

昭和五〇年度の恩給・共済年金改善に関する法律案は第七五国会において成立に至らなかつたが臨時国会に再提案され成立をみ八月一日に遡及されることになりました。

従つて一二期支給にあつたは既におしらせ済み(会報第一号)の額によつて八月分の差額と九、一〇、十一月の改訂によるものが支給されることになりました。

おしらせ

- 一 公社では退職者に対し次の要領で健康診断を実施されるので、対象該当者で希望する方は、現在住んでいる地域の局所へ申し出て下さい。
- 1 試行期間は昭和五〇年一月一日から五一年二月末日まで。
- 2 対象者は公社を高令(五〇才以上)で退職したもの。ただし再就職先で健康診断を受けられるものは除く。
- 3 実施回数 退職後一回限り。
- 4 事後措置 診断の結果、異常所見が認められる者についてのみ実施局所から本人へ通知する。
- 5 その他 健康診断とは、胃部間接撮影を含み、いわゆる二次検査等精密検査は含まない。異常所見者に対し「要精密検査」等の通知をした場合でもそれ以降の医療処置等は行わない。
- 6 検査費は公社において負担する。
- 二 電電公社医療機関では従来土曜日は午前中のみ診療を行つていたが、明年一月一日から土曜日を休診(入院患者については従来どおり)することになった旨公社厚生局長から通知がありましたからお知らせします。

特 集

辰年は
語る

ソ連一周の旅

猪谷 嘉夫 (高松)



七十歳になった記念に、昨年七月下旬から十五日間、ソ連一周—ハバロフスク、タシケント、トリビシ、ソチ、キエフ、リガ、レニングラード、モスクワの旅をした。

ソ連は外貨の獲得に懸命となっておるためか、外人観光客を大いに歓迎しておる。革命と宗教否定、世界大戦などで、帝政時代の文化財や寺院、教会は殆ど消失しておるのではないかと思っていたが、予想に反し大部分は多額の費用と労力をかけて当時の状態に修復されており、寺院や教会もその機能こそ停止又は制限せられておるにしても、博物館として昔日の姿で観光客を楽しませておる。イデオロギーと文化財の保護とを割切っておる様だ。モスクワが東京なればレニングラードは京都で、街並も落着いており至る所に帝政時代の遺跡がある。同行の中年女性が、モスクワはどうでもよいが、レニングラードだけは是非ゆっくり見たいと、正にその通りである

今年からやりたいこと

井上 義勝 (高松)

友友会の皆様、あけましてお目出とうございます。今年の辰年を迎え、まず第一にこの年まで元気で家族を含め大過なく、不幸もなく過ぎたことを感謝しています。今年で七回目の辰年を迎えますが、辰年の者はせっかちが多いとか私もごたぶんに洩れず、夜寝ていても思い出したら起きてやらねば気が済まぬたちです。幸い現在健康状態も良好なので出来ることなら八回目の辰を迎えたいと思っておりますので、今年を契機に次のことをやりたい。

- 一 何事も無私の胸中に立ち、物事にこだわらずのんびり暮したい。
- 二 出来るだけ余暇をみて旅行し神社仏閣にもうでたい。
- 三 次の辰年を迎えるため、健康に留意し、努めて歩くことを励行したい。
- 四 時の流れに従順で「老いては子に従え」を心とし愛され親しまれる人になりたい。

達磨の人生観

内田 龍雄 (松山)

公社退職後幸に職を得て、馬車馬のように十余年何も考えずに走り続けて来たが、先頃能力の限界を痛感して辞任した。家で静かに瞑想にふけてみると、まず大病もせず平凡ながらよくも丈夫で長生したものだ、天恩に深謝の気持ち起きる。鏡に映した自分の顔や姿を見つめて、老化の甚だしいのには愛想がたつ。体力・思考力がこんなに衰え、おぼれては日没の心細さをしみじみと感歎する。老後対策、生活信条、社会奉仕など何も考えず、無節制にその日暮しの過去を振り返り悔まれてならない。ともかくこれからは何事によらず初心に戻り、基礎から勉強し知識を身につけたいと思いつたのである。

さて、友人から贈られた「達磨入門」の小冊子を読んでみた。宗教には無関心でよく判らないが、庶民に人気のある達磨さんの人生観に接し、いささか興味を覚えたので次に記してご参考に供してみたい。

達磨さんの活動の理念というべき人生観は、「三種安楽法門」である。人生の幸せな生活法を三つ考えて、その方針を徹底して実践していこうということで、「徐緩・唯浄・唯善」の三つである。まず第一の「徐緩」はおもむろにしてゆるやかな生活法である。悠然として遠くを見だめて、一度こうときめたら挺子でも動かぬ。ゆっくり行こうと自らいましめ、一歩一歩踏みしめていくことである。第二は「唯浄」の実践で、ひたすら浄に徹することである。前に見える一切の境界は、みな純粹で善いことばかりである。悪いことは何もない。このように清浄な心を持って暮らすときには、この世は即ち浄土であり、この身は浄土身であるという。第三に「唯善」は誓って怒ったり恨んだりする心を起さない、決して忍耐力を忘れないことが善であってこれに徹するのである。

以上が、達磨さんが自ら心がけて実行していこうとした指針である。

最高の伴せ

内田 春雄 (鳴門)

光陰矢の如しとか、退職して十四年を経た。健康であり生活もどうにか不安なく今日に至った有難い事です。今後更に健康で長生したい、そして電信電話事業の発展を眺め乍らその恩恵にあやかりたいと思います。

何年前か、老友新聞に高野山本昇住職の長寿の心得が掲載されていた。人生は六十才か

ら、七十才の時お迎えがある時は留守と云え八十才の時はまだまだ早すぎると云え、九十才の時はそう急がなくてもよいと云え、百才の時は時期を見てこちらからぼつぼつ出かける云え。

昨年温古会の総会で長寿者の記念品贈呈に古稀の外に米寿白寿が追加された。健康で長生したい。多額の年金を頂いても床に臥っているのではつまらない。好きな旅行も出来てこそ楽しく、尚老妻と共に達者である事が最高の幸福であると思ひ、日常健康に留意して老いの身を少しでも社会のお役に立てばと各種の奉仕活動に生がいを感じ乍ら余生を送っている。

これからも続けたい

小野利喜信（高瀬）

毎年の暦に辰年生れはお世辞がなく、短気で負けず嫌い、そのうえ剛情とあり何のとりえもない性格とあるが、私が今日までに大書できることは禁煙です。喫煙は百害あって一利なしとか、私も四十年近くも一日四、五十本も吸っていた。友人と幾度禁煙申合せをしても三日坊主で長続きしない。

ある日テレビ放送で禁煙座談会があり、その経験者の話を聞き自分の心の持ちようで禁煙可能であると悟り、即時実行に移し今日まで十年余禁煙を続けてきました。

さらに会報に掲載された猪谷氏の入浴時マッサージ法を拝読以来これも一日も欠かさず続けています。

お陰で快適な毎日を過しています。何事も自分の意志次第で為せば成るということを知りました。これからもより以上健康に関心をもち有終の余生を願っています。

三代を生きて

木村松太郎（三本松）

明治三十七年二月二十一日生れの七十二才

三代の君に仕えて初詣

と一句ひねって見たが、吾ながらありがたいことだと思っています。

何と言っても健康であること、家庭的にも恵まれていること等です。

趣味として盆栽いじり、庭木の手入れと俳句の会に月一回または二回出席、また自治会や老人会には進んで出席して、いらざる無駄口をたたいています。

長生きしたことを喜んでいてはなくて、その日その日を楽しく暮してゆけることをありがたいたいことだと思っています。

ラケットとわたし

小松 重幸（松山）

わたしの特技といえは軟式テニスです。停年退職後もいたって吞気者で皆様が働いているときも天気さえよければラケット提げて若者を凌ぐハリキリでコートを走り廻っていたところが二年後の夏のこと（在宇和島）自転車事故で大事な右腕関節の部分を石垣に打ちあて骨折してしまつた。三週間程度入院し傷だけはいえたがそのあとマッサージ治療に三ヶ月を費し、医者にテニスは駄目だといわれひかんだがやりたくてしょうがない。ラケットの素振りなどして回復につとめた結果どうやらやれるようになったときの喜びとうれしさは非常なものだった。

松山に永住の地を定めて二年後の暮のこと、風邪をひき熱がさがらず、最寄の医者に診察を乞えば肺炎の恐れあり安静にするようにいわ

れ其の後レントゲン写真にて湿性助膜炎を併発していることがわかる。これ又驚き通信病院に入院した。死線をこえること二、三度四ヶ月の闘病生活をして一ケ年は静養につとめたが主治医は絶対テニス等の過激な運動は又駄目といわれる。ところが練習風景等を見るにつけ悪い虫が起きて一寸ならよかろうと自分勝手にきめてついはいはじめるようになった。今日までかれこれ五十数年になるがどうしてもやめがたいテニスです。

齡七一才をこえた今近く六回目辰年を迎えるがたしかに足腰は弱っているがこれからさきも無理をせず何時までもラケットを持ちたいものと思っている。

名前の思出

竹村 辰猪（高知）

土佐には昔から獣の名前が多い。私の気性も名前負けしているところづく思ふが、これも両親が無病息災を祈願して神社からいただいたとの事であれば今更何も気にする事もない。

これでも大正の中期、通信生養成所を卒業高知局に配属になり初めて辞令を手にした同僚が見せ合つたところ小生だけが二十七銭也て他より五銭安くガツカリしたが友人の勧めもあって主任に相談した所やあつて庶務課で調べたところ女性と間違つていたとの事ではつとした事だった。

扶養控除等申告書はお出しになりましたか

提出期日は一月一〇日です。必ず四国電気通信局職員部厚生課長あて提出下さい。余白に証書の記号番号及び自宅の電話番号を記入願います。

辰の子に幸あれ

田島 勝美 (高知)

一口に辰年と云っても母親のお腹の中で来春の出産を準備中の胎児から、私達のように背中に苔の生えた老年迄随分と年代に差があり、その時代に應じて考える事も異ってくるのは当然だと思ひます。

しかし世代年代は異つても、平和で豊かな暮しを願う気持は皆同じではないでしょうか。公害、車害、インフレ、不況等の天災、地震台風等の天災、私達の身辺には危険が一杯の時代です。この危険から身を守り、平和で豊かな生活をかちとるためには私達は団結して事を一つ一つ処理してゆく必要があると思ひます。

やがて生れてくる辰の子の生命を守るためにも……。

回 想

安 淵 堅一 (徳島)

この前の辰年昭和三十九年で還暦の満六十才になり、所謂本卦に返り生れかわって今年には、昔流に数え年十三を迎えた辰年である。それで遠い昔の十三才頃を思い出して見たいそれは大正五年である。大正五年と云えば第一次世界大戦中で日本も同盟国側に参戦し青島で戦果をおさめ、徳島へはドイツの俘虜が来て市内を散歩するすがたを見たものである。世の中は戦争成金と貧乏の両極で、やがて米騒動が起り混乱して、大正デモクラシー思潮が論ぜられた時代であった。私は翌年の夏世話を人があり希望に胸をふくらませ、南満洲の奉天に渡り商家奉公をしながら支那語の勉強に精出し将来在満の実業家を夢見ていた

然し大志は家の事情でならず、帰郷職場二、三を体験し親父の友人の紹介で電電公社当時の徳島技術官駐在所に就職し無事停年まで勤め、昭和三十八年に退職した。思えば変転の多い長い七十年余であった。

干支に憶う

西本 雅猪 (高知)

あなたも辰年ですか、ああそれはそれは、とただこれだけで親近感が生まれる。

婦人に、失礼ですがあなたはお幾つですか……これに対する返事はうやむやにばかされ勝ち。

そんな時、何の年ですか……と向きを変えたと回答の確率が高いようである。だが明治生まれの辰年となると顔のしわが深くて、逆に年令の答えの方は出易いようである。

はじめに言葉ありき(後はどうなる)

渡部 義数 (松山)

「はじめに光ありき」とは聖書の言葉であるが、現代天文学によると、宇宙創造の時光が主役を演じたという。近年は、今年こそはと力むこともなかったが、書く破目になったのを奇貨とし「はじめに言葉ありき」で……。

今年の願いというのは、別に世間的な地位名誉、大金を掴みたいというのではなく(何しろこれは相手のあることだから)、少し気障な言い方をすれば、「心の自由」という大それた願望である。この方は、相手があるとしても決定権はこちらにあるのだから、考えようによってはできぬ話でもあるまい。例えば次の話のようである。

昔ある時、ジオニユシオス王がソポクレスの詩句を利用して、ソクラテスの弟子アリス

チップスをからかった。

旅にして、王の御殿にある者はこれ皆王の奴隷なり

よしや自由の身にしありとも

王は権力者だから、口から出るのは命令ばかりだったろう。西洋哲学の祖タレスは、難しいことは「自分を知ること」、易しいことは「人に忠告すること」と答えたというからしてみると王は易しいことばかりしていたことになるのかも知れない。とぼちちりが客人に来たわけであるが、さすがはアリスチップス、同じくソポクレスの詩句で応酬する。

奴隷にあらじ、自由の身とし来りなば。凡人の悲しさ。このようにうまくいくかどうか。年男、弱気を出すまい。出すまい。

辰年に思う

鴨谷比早栄 (高松)

辰年生れはしゃんとしていると云われる。

私は父の死後、母の里に養子に行き、その家の祖母が親と離れて可愛相と、甘やかされたためか、我儘で負ず嫌い、養子先の男の子と喧嘩をしても勝ち、周囲の人からは辰の子はがいていけないとよく言われ、物心つく頃から辰はがいなのだと思うようになりました。

勤めに出るからは反省もしましたが、様々の出合に心は動揺し、つい我が出てしまつて後悔。この先何回辰年を迎えるやら、それとも夜半の嵐に果なく消えるか、とにかく優しい心温る辰になつて償ないたい。人生も下り坂になると、織り続けた人生模様の一駒一駒をしみじみと偲ぶ。若くして散つた人々、もう相見ることもないと思つて胸はうずく。でも私はこうして生き長らえている。なににも替え難いこの幸を有難く感謝し明るく、すべて

のことを良きに解して、心豊に過したいと、辰年の年頭にまたも、こんこんと自分に言い聞かせるのである。

我が来し方と思う

松本 一喜（土佐中村）

人は老いてくると自分を悲劇の主人公に仕立て、「私位苦労したものはなからう」といつているのをよく耳にする。同年代に生れた人でもその人それぞれの生立ち、環境によって人生もさまざまであろう。「辰年は語る」についてなんでも結構と言うことなので自分の人生行路を振り返ってみます。

大正五年三月の辰年生れ。日支事変以降、現役、召集させて三回務め、終戦は中支の武昌で昭和二年三月米兵に追立てられるようにして、くすんだ博多港から上陸。家に着いて久し振りに横になった時の気持今だに忘れられない。これまでの大切な十年間をそれぞれ現在に生き、復員後は無我夢中。

昭和二六年四月現在の電電公社へ保全管理要員として入社、以来二四年余り、その間、身転勤計八回、これだけ一寸エリート並、目先が見えんので何時もノロノロ運転、お蔭で石油ショックの昭和四八年満杯で退職。後一年嘱託を拜命親切な部長さんのお蔭で無事務めを果たし現在故郷の某高等学校の寄宿舎管理員として若者と一緒に、時折り時代のズレを感じつつ我が波瀾？の人生をとぼとぼあるいています。

当り年を迎えて

寺西 保（鴨島）

阿波高越の峯を拝し新年のご祝詞を申し上げます。

私は十二支五位の辰年生れです。辞書によると「想像上の動物、鱗虫の長にて雲を起し雨を呼び飛動の姿を示す」とあります。

顧みますとあの戦後の荒廃した国土、徳島市の焼野原で、通信施設業務の復興に汗をふりしぼり働いた困苦は忘れられませんでした。そのため少し身体もいためました。でも三十有余年の長い年月の公務です。楽しい思い出も山程あります。中でも同僚と競争というか協力というか「負けじ魂」で精を出した数々たつ年の持前「雲興雨呼」で地固るでしょう電気通信業務は復興、努力につぐ技術革新により進歩発展し今や世界は広くて狭く、遠くて近い情報化時代となりました。

考え思えば電気通信の業務は重大な使命を持っています。息子も親父の道をついでくれています。

「人生七十年」この天職で得た知識、体験を生かして第二の人生に生き甲斐を見つけ働きつづけたいと念願する「たつ年」の今日この頃であります。

還暦を迎えて

竹田 輝豊（松山）

今年辰年で私の干支で早や還暦を迎えました。

子供の頃近所のお年寄りが還暦祝をしていると老人だなーと思いましたが自分で迎えてみると少しも実感がありません。まだまだ若いと思っておりますが孫から「お爺ちゃん」と言われたり、白髪が増えたのを見ると「年だなー」と考えさせられます。過ぎさった六十年を振り返ってみて「何をしていたか」と考えた時、これといった事もなくすごしたことがチョッピリ悔まれてきました。

しかし色々な思い出が浮んできませんがその中で戦争に出た事が一番印象に残っております。戦争には縁があったのでしょうか、生れた年が第一次世界戦争の真唯中であり、青年期には支那事変で南支那へ、大東亜戦争ではビルマへと七年間も戦地ですごし、青春期は戦争に明け暮れました。おかげで戦争の悲惨さは身に浸みしております。また九死に一生を得ましたので生と死のわかれは神のみの司る運命だとしみじみ感じそれからは禍福は運命だと思っております。

今までは無為にすごした人生でしたが還暦を迎えこれからは短かい命でしょうが、お陰様で元気ですから戦争で失った命と思えばこれから生きられるのは余禄と思ひ、どんな小さな事でも良いから社会のお役に立つ事を何からでもよい、やりたいと張り切っております。

私のねがい

大田 佳代（高知）

「光陰は矢のごとし」とは本当によく言ったもので、私は定年を迎えて、もう半年をすごしました。

世の中は相変わらず公害、物価高、これにまつわる人間の争い、みにくさが日々の新聞紙上をにぎわし、また人々の持つ価値感すらも刻々として変ってゆく今の社会、はげしい世の移り変りに、これから先どのようになるのだろうかと考えさせられますが……

ほんとうに今年少しでもよい明るいニュースをききたいものです。私たちは一人ひとりが時流に流されることなく、もっと自分を大切に、心ゆたかな、楽しい毎日を送ってゆかなくてはならないと思ひますね、私は

健康を第一としていろいろなものを勉強し、
生きがいある人生を送りたいと念じていま
す。

飛 龍

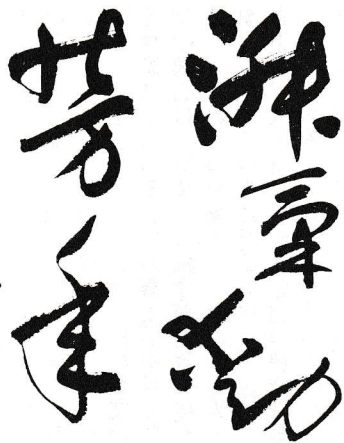
喜田 鎮雄 (高松)

ついこのあいだ三越で民芸展があった。
そこに屋久杉の龍の置物が……わが「エト」
にあやかって食指が動いた。いやそういうこ
とより飛龍という題名が気に入ったのかも知
れない。

「飛龍」今にもおどろけるような姿勢、わ
が辰年、かく威勢よくポケットベルも勢に乗
ってみたい。

淑氣動芳年

幽 齊 書



淑氣動芳年

春の気が洋々として芳年を動かしそめた。

長谷川 茂 (松山)

随 筆

徒 然 草

栗田 信雄 (松山)

「つもごりの夜、いたう暗きに松どもともし
て夜半過ぐるまで人の門たき走りありきて
何事にかあらむ、ことごとしくのしりて足
をそらにまどうが暁がたよりさすがに音なく
なりぬるこそ、年のなごりも心細けれ。なき
人の来る夜とて魂祭るわざはこの頃都にはな
きを、あづまの方にはなほすることにてあり
しこそあはれなりしか。かくて明けゆく空の
気色昨日にかはりたりとは見えねどひきかへ
めずらしき心地ぞする。大路のさま、松立て
わたしてはなやかに嬉しげなるこそ、またあ
はれなれ。」

正月号にあやかり徒然草一段からつもご
りと元旦の描写の一節を引用してみた。

学園から監査部それから共済会の監査課の
十余年の間、追われ攻めたてられるような気
持の中で事業関係の本をあさりつづけてきた
全く無味乾燥砂をかむ思いで読書のたのしみ
などというものはとても味わうことができな
かった。

共済会を最後に職を退いてから、これから
が締めくくりの人生である。うるおいのある
生活をしたいたいと思ひ、そのひとつとして、手
にしたのが徒然草と方丈記でありこの二冊が
わたくしの貧弱な古典である。ともに若い頃
ある検定試験の参考に読んだのが心の片隅に
残っていたのである。ともに中世における随
筆の傑作といわれその自然性の深さにおいて
は日本文学の中の代表作といわれている。

「つれづれなるままに、日ぐらしすずりに
むかひて心にうつりゆくよしなしごとをそこ
はかとなく書きつくれば、あやしうこそもの
ぐるほしけれ」ではじまる徒然草は二百四十
三段からなり、その中には人生観、自然観、
趣味論、芸能論あり逸話ありで、参考書とし
て読んだときよりは深い味わいがあり、興の
尽きるところを知らない。それこそつれづれ
な老後の読みものとしてたのしいものであり
ほのぼのと心温り、ゆたかな人生へのかたと
して毎朝一段一段を読み返し、読みつづけて
いるのである。

ある謡会

黒田 富一 (宇和島)

謡をやらぬ私に謡会の招待があったのは
まだ残暑のきびしい去年の秋のお彼岸であつ
た。永年謡をやっている長兄と弟の縁につな
がる招待である。

当日、退屈を覚悟で行ったが、空いている
謡曲本を借用、謡の声につれて文章を辿った
りしていると、結構退屈せずに済んだ。

退屈といえば、私はこの日の数日前、朝日
新聞で「奇談の時代―奇行」と題するシリ
ズものを興味をもって読んでいた。それには
こうある。

宇和島藩主伊達村候(むらとき)が能見物
に招かれていて、中入りにつかつかた舞台上に
上るや、ワキの前に座りこみ、「退屈でしょ
う、一杯召上れ」と大杯で酒を勧めたとい
う。後ジテの支度ができるまでの中入りの間
(あい)語り中も、ジツとワキ座に座ってい
なければならぬワキはさぞ退屈だろう、と
までは誰でも思う。が、そこから一歩踏み出

して舞台上に上る途端に日常の次元を離れてしまふ、と。

そこで私は思うのだが、いったい、愚者や狂人あるいは常人がこのような行動に出てもそれは奇行とは言わないだろう。常人に優つた人が行なつた場合、奇行と言われるのではないか、と。実は「朝日」にこの一文が載つて間もなく、宇和島の松浦という人が「新愛媛」にこれを取り上げていた。それを読むと伊達村候は宇和島藩五代の藩主で相当の名君前記の逸話は「耳袋」(根岸鎮衛著)に出て

いるが、これには村候のこの行為を「大名の識量」「武家の慰みに見る能なればさもあるべき事と、人の語りぬ」と名君の評価を奉つてゐる、とある。そこで私も調べてみた。手もとの「宇和島の自然と文化」(宇和島文化協会編)によれば、村候は藩中興の英主、寛政六年没、藩学内徳館(後の明倫館、廃藩置県まで存)を興した、とある。

やはり相当のえらぶつである。ではこのような人が敢えて奇行に出たのは何故であろうか。「耳袋」の筆者は逸話としてゐるが、この時の村候に何事か含む理由があったとしたら、話としては面白いと思うが、どうであろうか。

北海道の旅

藤田 基孝(松山)

ジュンサイの光る丸葉の下にすむワカサギ釣るをしばし立ちて見る

網の中に跳ね上るチカを掌にすくひ吾にくれたり礼文の漁師は引く網にかかりしチカの十幾尾提げて歩みぬスコトンの浜とどど胡濱島の見ゆる岬の岩の上に白き蓬を摘みつつ遊ぶ一斉に萌え出でし草のみづみづし草に寝て居ればうしほ匂ひぬ

ああ渡部隆義君

山内 旬一(松山)

五か月の病にはかなき壇の君一生たもちて笑み深き君

わが縁にともに春日をあびながら吟行のたのしさを君は語りき鬼菊池をしのびてもてる盤石を婿なる君に見せたりしかな

俳句

三島 花人(徳島)

祝われる古稀の芽出度し菊薫る
子等揃い古稀の祝宴菊薫る
幸な老ひと言われて菊手入

投稿規程

- 一 会員消息 四〇〇字以内
- 二 短歌、俳句、川柳 五首又は五句以内
- 三 随筆、随想 六〇〇字以内

原稿締切 二月一〇日

原稿の取扱についてはお任せねがいます。

訃報

次の方々が亡くなられました。謹んで哀悼の意を表します。

氏名	死亡月日	行年	所属
木田繁清殿	50・10・30	七七	高松
渡部隆義殿	50・11・1	七〇	松山
西原軍平殿	50・11・8	六三	松山
浦辺新吾殿	50・11・14	七二	三本松

編集後記

△明けましておめでとうございます。いらいらさせられた年金改正法案も臨時国会でやっと成立、八月に遡及実施されることになりご同慶に存じます。
△特集「辰年は語る」一部の方の玉稿紙面の都合で次号へ回さしていただいたことをお詫び致します。
△今年も電友四国の一層の充実を図るため努力する覚悟しております。何卒ご協力のほどおねがい申し上げます。(玉川)

電友会四国連合会会報 第一三号

昭和五十一年一月一日発行

編集発行 電友会四国連合会

事務局

松山市一番町四丁目

四国電気通信局内

電話(〇八九九)三六一二〇二三

印刷 四国電話印刷株式会社